

多久地区JA味噌加工グループ

▼お揃いのエプロンで、ますます頑張るメンバー



自家栽培青大豆による味噌の製造販売！ 平成23年度佐賀県農業賞で優秀賞

“自分たちのできる範囲で”を合言葉に、平成6年の設立から現在まで17年間にわたり、自家栽培した青大豆と県内産米麦こうじにこだわった安心安全で美味しい「手づくり味噌」の製造販売活動をしています。会員は現在17人。手づくり味噌は、自家消費や直売所での販売のほか、多久市学校給食センターでも使われています。

学校給食への提供を契機に小中学校で、青大豆栽培と味噌づくりの体験活動の指導や交流活動が始まりました。学校や生産者、地域が連携した地産地消と食農教育の輪の拡大を図っています。

この活動が評価されて、平成23年度佐賀県農業賞「組織・集団の部」で優秀賞(佐賀県主催)に輝きました。会長の相知さんは、「ここまで活動ができているのは、みなさんの協力のおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。今後も頑張って味噌づくりをしていきたい」と笑顔で語られました。

この美味しい手作り味噌は、直売所の「たくさん館」、「幡船の里」で購入できます。

問 相知幸子さん ☎76-3621

●連載11● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

『多久の殿様展』

佐賀県重要文化財・多久家資料には、多久家歴代領主たちの肖像が残されています。

多久領の祖龍造寺長信から11代多久茂族までが勢ぞろいしており、衣装も直衣・祭官服・僧衣であったり、描き方も写実的だったりデフォルメされていたりとさまざまです。4代茂文を描いたのは多久聖廟天井の「蟠龍」で知られる御厨夏園、8代茂孝、9代茂鄰を描いたのは東原彦舎や藩校弘道館の教官をつとめ、学者・文人として著名だった草場佩川です。

しかし、5代茂村の肖像画だけが欠けています。茂村は小城鍋島家より養子となって多久領の領主となります



▲多久領の祖 龍造寺長信

が、兄が死去したため実家に戻り、6代小城鍋島藩主鍋島直英となりました。このため、多久には5代領主の肖像画が残っていないのです。

多久市郷土資料館ミニ企画展

多久の殿様展

会場 / 多久市郷土資料館 3号展示室

会期 / 2月3日(金)～3月31日(土)

開館時間 / 9時～16時 入館 / 無料

休館日 / 月曜日(月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館)

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

市民文芸

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

阿弥陀如来の仏画見事な色絵の師

友の看護の礼に戴く 寿代

冬日射す柔らかき午後の一みに 迎

ひとりぼっちで短歌に向き合う 田淵ミチ子

この世にも無情の風は吹きすさび 末子の弟先に身罷る 福島那智子

誕生日おめでとうございます 横須賀から六十年前の教え子の声 内田 龍子

片足を上げてズボンの穿きがたく 川浪 信子

なれば傘春の足音近し

内筆の賀状みつけて読みかへす 武富りつ子

ほどほどの幸せありて福寿草 光野まさ子

冬薔薇蕾のままにしおれけり 川内スミ子

かたかたを押す子にっこり 春隣 中嶋 清子

竜の玉ころころ神の石畳 大石ひろ女

俳句

《あざみ句会 互選》

川柳

《多久市川柳会 互選》

純白の雪も凶器になる怖さ 高塚チカ子

幸せの種を蒔きたい日本国 東島すみ子

折り込みがだんだん春になつていく 松下 修

梅干も国際線に乗せていく 田代まつこ

復興へ梅も芽吹いて応援歌 西山 残月